

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和七年八月度 入賞句一覧

投句数 六百八十三句

特選

名和 永山 選

村ひとつ水に浮かせて田植どき

安八郡輪之内町 野村 照子

ここ大垣の南部海津や輪之内というところは、土地が低いため「土」を掘り下げて田んぼを作った。当然、土を掘ったところは、川のように低く、水に溢れている。田植え時に水を入れると、村だけが水に浮かんたように見える。田植え作業には舟が使われていたのである。「村ひとつ水に浮かせて」とその情景が巧みに描かれている。

本籍の地番更地や流れ星

神奈川県相模原市中村 光枝

自分の本籍地は今どうなっているだろうか、知りたい人は多くいる。今は、ネットの検索で本籍地を入力すると、その場所の情景を映し出すことができる。「更地」であったことで、昔の面影もなく時の流れを感じたのだと。季語「流れ星」により、読者へイメージを委ねた点が良い。それは、中七の切れ字「や」の効果である。

老いるとは難儀なことよ蝸牛

岐阜市 田中 淳子

季語「蝸牛」は、皆さんがよく知っている通り、背中に殻を背負っている。また、動くのもゆっくりである。この蝸牛の季語に「老い」を重ね合わせた句である。また、ゆっくりとしか動けない、まさに老い人なのである。中七の「よ」が句をまとめ上げている。

秀逸

夏の月孤独の肌を照らしけり

埼玉県所沢市 坂井 傑

百選の水清涼をすくひたり

大垣市 平野 きぬよ

一の矢の天を祓ひて滝開き

大垣市 久保田 悟義

一日を浄土にかへす夕焼け空

大垣市 浅野 翔泉

草いきれゆるく髪結ふ夕べかな

養老郡養老町 佐藤 咲楽

夕風の時空をずらす茅の輪かな

大垣市 吉田 てるみ

「ぐりとぐら」今日はここまで昼寝時

埼玉県越谷市 小田 毬藻

鉄線や蔓の絆しを抜けて蔓

養老郡養老町 大橋 与志

見えぬもの動きはじめて秋の風

長野県下伊那郡 長沼 まさし

大夕立の都心の空気入れ替はる

岐阜市 田垣 百合子

入選

日傘さす紳士は粋に紺衄

大垣市

香田 末代

蟻たかる幼児のこぼしたビスケット

大垣市

増田 あつ子

半夏雨やり直したき恋ひとつ

岐阜市

田中 淳子

鵜篝の散りこぼれたる水明り

安八郡輪之内町

野村 照子

すれ違う香水の香のうとましき

岐阜市

古田 静子

涼しさや水影ゆるる深底

養老郡養老町

田中 紫香

病む人に西瓜小さく小さくして

大垣市

尾関 逸子

途切れなく泉の湧くや結びの地

千葉県習志野市

加藤 真理

この残暑地獄の釜の余熱かな

大垣市

宮上 美濃留

秋暑し鴨居の遺影褪せし色

大垣市

平野 きぬよ

梅雨晴間跳んで弾んで庭雀

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

深くなる鎖骨の凹み大暑かな

三重県四日市市

井立 美智乃

落研の友は扇子で蕎麦啜る

揖斐郡大野町

横山 道男

図書館のセミの声聞く指定席

大垣市

美濃仙人

大の字に一陣の風夏座敷

各務原市

能登 航

選者吟

巫女すこし恋して秋のさるすべり

永山



一般の部